

前山小学校 防災教育への取組 (2018. 1. 30 現在)

○「学校安全」の3領域 【生活安全】【交通安全】【災害安全】

○【災害安全】を構成する3つの活動 ①防災教育 ②防災管理 ③組織活動

本年度、前山小学校が行おうとした【災害安全】に関する取組を、上記①～③の3つの活動に当てはめ、まとめました。ゴシック体に行っているところが本年度の新たな取組（あるいは改良）です。

①防災教育

防災学習と防災指導

○防災授業：オープンスクールにおいて全学級で実施。保護者や地域にむけた啓発も兼ねる。(6.7)

○授業研究：5年生(6.19)と2年生(7.3)が、昨年度作成した丹波市の教材を使用し、校内研修において提案授業を行った。また、その成果を担当者によって丹波市に提供した。

(講師 丹波教育事務所防災教育専門推進員)

○防災学習：当地域に根差し、これまでから一緒に活動してきた学生ボランティアの方々に、低・中・高学団ごとの授業をしていただいた。今年で3年目の継続的な取組である。(9.7)

○関連学習：学年毎に、理科・社会科・家庭科・生活科等の教科の時間に関連学習を行ってきた。

○防災マップ作り → 「前山地域災害復旧・復興マップ」といった趣で展開。【丹波新聞 6.1】

3年生の取組①町探検(前山を安心・安全にしているもの探し)

○ボランティアの方々 ○ダムの役割 ○アジサイプロジェクト ○栗園 ○ひなたぼっこカフェ

②前山元気マップ作製 ③朝会発表「前山の元気を伝えよう」

④お弁当作り【丹波新聞 12.17】 (10.13)



○防災下校：3年生以上の児童が教師やPTA役員と実施。「地域復旧視察防災下校」といった趣。

(6.29)

②防災管理(対人管理) = 避難訓練等 c.f.(対物管理)

○引き渡し訓練《豪雨対応》(6.7)

○不審者対応訓練 対応マニュアルに基づき、柏原警察署や駐在所員の指導のもと教員研修。(8.7)

○Jアラート(全国警報システム)対応訓練(9.21) 運動会中に起こることも考え、地域にも周知。

○避難訓練《火災対応》(10.18) ・通報訓練・消火訓練(児童と職員)・消防隊員からの講話

○防犯講話：駐在署員からの講話と「こども110番の家」の確認(11.8) 本年度：簡易的方法実施

○避難訓練《震災対応》 防災講演会と抱き合わせ、保護者・地域の方と一緒に実施。(1.13)

③組織活動 地域との協力体制づくり

○防災講演会(1.13)

「ふれ合い参観日」に、九州豪雨災害に派遣された丹波市職員さんにより、福岡県朝倉市の場合と、前山地域の場合とを比べながら、防災や減災に関する知識や技能等について講演いただいた。

子ども達だけではなく、保護者や地域の方と一緒に講演会を行った。【神戸新聞・丹波新聞】

○自治会役員さんへの防災教育等の取組の周知

地区役員会での話題提供 年3回（①6.24 ②11.24 できず ③1.24）

→ 「防災教育連絡会議」につながっていくことを期待。

○運動会をする中に、防災に関する演技種目を含んでもらう予定であったが、実現させるところまではいかなかった。

・PTAでは、氷上西高校の先例に倣ってプログラム化するところまで学校で先導したが、実現しなかった。来年度は実現したいと願っている。

・自治会においては、山南町の和田地域において自治会で取り組んでおられる例があるので、今後、実施を考える時には、こちらも参考になると予想する。（和田地域づくりセンター）
防災の取組は、子どもだけではなく、保護者や地域住民と一体となった取組となることが望ましい。なんとかそうした機会を作りたいので、学校と一緒に考えていただけるとありがたい。

PTAか自治会か、どちらか1つの実行でよいが、被害地域であるという当地の現状を考える時、自治会での取り組みがなされることが望ましいかもしれない。

【成果】

○防災授業に取り組めた。研究授業を2回行い、参観日に全校授業も行って、保護者や地域に対しても啓発することができた。

○地域と連携するという点について、昨年度以上の成果をあげることができた。

・ゲストティーチャーとして地元の多数の方々にご協力いただき、身近で顔の見える関係性の中で、防災教育を行うことができています。こうした積極的な交流によって、様々な機関や地元団体の方々との関係性が、一層深くなっている。（・クラブ活動での参加 ・新たな方々の開拓）

→ 防災教育のみならず、ふるさとに対する愛着と誇りを身につけていける取組となった。

災害時に苦勞を乗り越えていかれたことを改めて聞き知り、また、復興にかける地域の方々の思いや取組を実際に学んでおり、まさに「ふるさと教育」そのものである。

・参観日や学校朝会、またオープンスクールなど、保護者や地域の方の来校時に防災に関する取組を行って、地域周知することができた。

・防災学習や防災授業の取組を、通信やHPなどを通じて周知することができた。

○教育課程の中に組み入れる下地が完成した。昨年度は、計画的な組み込みができるかどうか、また、内容の精度をあげていくことが課題だったが、3年生の総合的な学習の時間で取り組むこととし、全校実施するものとは区別をすることで、先の課題を解消し、負担感も減少させることができた。

○本校や丹波市の受けた豪雨災害の経験が、シーズアジア等の協力を得て、市内全ての学校で学ばれる教材（紙媒体【昨年度】・DVD【本年度】）として資料化されている。（本校出身中学生の活躍）

【課題】

○各学年の教科の中にある防災関連の内容を一覧表にまとめはしたが、実際の取組管理は、担任に任せられていた。地域防災に関する知識・技能や復興への意欲及び態度の形成につなげられそうな教材があるときには、教科学習においても実施していくことで、生活化しやすくなると考えている。6年という時間の中で、防災の面でどのような力をつけようとしているのか「見える化する」ためにも、作った表を発展的に活用していくことが必要である。（全体計画の作成）